ジュニアユース教育の重要性と緊急性

The Importance and Urgency of Educating Junior Youth

若き日々に立ち上がる者への祝福

- *青年期に、そして人生の最盛期に、常に統べたもう主の大業に仕えるために立ち上がり、心を神の愛で飾る者は幸いである。そのような神の恵みの顕現は、天と地の創造よりも偉大である。確固たる者は祝福され、断固とした者は幸いである。*

共同体には、１２歳から１５歳の間のいわゆるジュニア･ユースがいます。幼年期と青年期の狭間で多くの変化を経験するこの年代は、特有のニーズを有する特別な年代層を形成します。彼らの関心を引き、布教と奉仕のための彼らの能力を形成させ、年上の青年たちとの交流を促す活動に彼らを組み入れるための独創的な配慮が要求されます。これらの活動に様々な芸術を取り入れることは大いに効果があります。(万国正義院)

PART I
背景 Background

万国正義院のメッセージ
Message from The Universal House of Justice
Ridvan 2000

しかし、これらの任務に注意を向けると同時に、切迫した挑戦が目前にあります。我々の子供たちは精神的に養育され、大業の生活に融和させられなければなりません。子供たちを、これほど多くの道徳的危険をはらんだ世界の潮流に放任してはならないのです。現在の社会は、子供たちに残酷な運命を押しつけています。何千、何百万もの子供たちが社会で行き場をなくしており、この状況は国から国へ広まっています。豊かさの中にあっても、また、貧困にあっても、子供たちは親や大人たちから疎外されています。この疎外の源泉は物質主義より生まれる利己主義です。これは、あらゆる国の人々の心を掴んではなさない無神論の中核をなすものです。社会的に居場所をなくした子供たちの姿は、社会の衰退の動かぬ証拠です。そして、この状況は特定の人種、階層、国家、経済状況の中だけにあるものではなく、すべてにまたがるものです。世界の多くの地域において子供たちは兵士として駆り出され、労働者として搾取され、実質的に奴隷として売られ、売春を強いられ、ポルノの被写体とされ、自分の欲望に溺れる親たちに見捨てられるなど、数え切れないほど多種多様な被害を被っており、その姿に我々の心は痛みます。これらがもたらす精神的、心理的打撃は想像を絶するものです。我々の世界共同体もこの影響から逃れることはできないのです。この認識は、子供たちとその将来のための緊急、かつ継続的な努力を我々に促します。

子供に関する活動は過去の計画にも盛り込まれていましたが、それらは不十分なものでした。子供とジュニア・ユースの精神的教育は共同体の発展にとって最も重要な意味を持ちます。従って、この不足は何としても是正されねばなりません。インスティチュートには、地域共同体に奉仕できる子供クラス教師の訓練プログラムが必ず含まれるべきです。子供たちに精神的および学術的教育を施すことは重要ですが、これらは子供たちの人格を育成し、個性を方向づけるに必要な要素の一部でしかないのです。個人や機構、つまり、共同体全体が一体となって適切な態度で子供たちに接し、彼らの福利に関心を持つ必要があります。この態度は、急激に衰退している秩序の中で見られるものとはかけ離れたものでなければなりません。

子供たちは、共同体が所有する最も貴重な宝です。将来の希望と保障は子供たちと共にあるのです。将来の社会がどのような性質のものになるか、その種は子供たちが持っています。社会の性質は、共同体の大人たちが子供たちに対して行なうこと、もしくは、怠ることによって概ね決定されます。いかなる共同体も、子供という信託を無視して無事ではあり得ないのです。大人が子供たちに示すもの、すなわち、すべてを包み込む愛情、接し方、配慮の内容、言動に含まれる精神、これらはすべて必要とされる態度の重要な要素です。愛情には仕付けが必要で、子供たちを困難に慣れさせる勇気が求められます。子供の気紛れのすべてを満足させ、意のままにさせるのが愛情ではないのです。子供たちが共同体の一員であるという意識を持ち、その目的を共有するような環境を維持しなければなりません。子供たちがバハイの規範に沿って生活し、各々の置かれた状況の中で大業について学び、布教するよう、愛情を込めて、執拗に導き続けなければなりません。

共同体には、12歳から15歳の間のいわゆるジュニア・ユースがいます。幼年期と青年期の狭間で多くの変化を経験するこの年代は、特有のニーズを有する特別な年代層を形成します。彼らの関心を引き、布教と奉仕のための彼らの能力を形成させ、年上の青年たちとの交流を促す活動に彼らを組み入れるための独創的な配慮が要求されます。これらの活動に様々な芸術を取り入れることは大いに効果があります。

次に、子供たちの養育に最大の責任を持つ親たちに言葉を向けたいと思います。我々は子供たちの精神的教育に不断の取り組みをするよう親たちに訴えます。一部の親は、この責任はすべて共同体にあると考えているようです。また、真理の独立探究を子供たちに保障するために、子供にバハイについて教えない方がよいと思っている親もいます。更に、自分は子供の精神的教育に責任を持つにふさわしくないと自らを卑下する親もいます。これらはすべて誤りです。親愛なる師は次のように言っておられます。「父親と母親には娘や息子たちを教育するためあらゆる努力をする義務がある。」そして、「このことを怠るならば、彼らは厳しい主の御前において責任を問われ、非難されるであろう。」と補足されています。

親は、自分の教育レベルに関係なく、自分たちの子供の精神的発展を形づける非常に重要な立場にあるのです。親は子供の道徳的性質を育てあげる自らの能力を決して過小評価してはなりません。神を愛し、神の法に従って生きようと努力し、神の大業への奉仕の精神に支えられ、狂信的態度を避け、陰口のない、すなわちそれがもたらす破壊的影響のない家庭環境を築き上げようと努めることによって、親は子供に不可欠な影響を及ぼしているのです。バハイの教えでは、親に対する子供の自発的従順が非常に高く評価されていますが、祝福された美を信奉するすべての親は、子供が自然にそうできるような言動を自ら示す義務を有します。無論、家庭での様々な努力に加え、親たちは共同体の提供するバハイ子供クラスも支持しなければなりません。今日、子供たちが生きる世界は、絶えず彼らに厳しい現実を突きつけていることを忘れてはなりません。子供たちは、上記のような恐怖に満ちた経験を直接もたなくても、メディアの避け難い洪水にさらされています。こうして多くの子供は、余りにも早い成熟を強いられており、その中には、自分の生き方を導く基準や規律を求めている子供が含まれています。この退廃的な社会の憂鬱な背景に抗して、バハイの子供たちはより良い未来の象徴として輝かねばならないのです。

万国正義院
2001年5月メッセージ

人類のニーズは、競争相手間の争いや、絶望的な時代を苦しめる無数の虐待行為によって満たすことはできません。むしろ、根本的な意識改革、地上の全ての人たちがそれぞれ、人類全体の安寧のための責任を受け入れることを学ぶべき時が来たというバハオラの教えを、全面的に受け入れることが必要とされます。この革命的な原則に身を委ねることは、個人の信者や機構が、他者を神の日に、そしてこの世界を変えうる精神的･道徳的潜在能力に呼び起こすことにおいて力を与えるでしょう。われわれは、他者に対する振る舞いの正しさ、規律、また社会の集団行動を不具にする、そして変化に対する積極的衝動を損なう偏見のなさによって、この献身さを実証できる、とショーギ･エフェンデイは述べておられます。

ショーギ・エフェンデイが設けられた標準は、個人と集団両方の意味で、バハイ共同体全体に当てはまります。しかしそれは、バハイユースにとって特別な意味合いがあります。彼らは、うらやましいほどのエネルギー、知的柔軟性、そして身動きのしやすさという利点に恵まれています。バハイユースが受け継ぐ世界は、教育・経済その他の基本的機会において、はなはだしく不正な世界です。バハイユースは、このような障壁によっておじけづいていてはなりません。彼らのチャレンジは、人類の真の状態を理解し、人種的・国家的分裂だけではなく、社会的・物質的状態によって作られた分裂から解放され、委託された大いなる信託を推進する継続する精神的絆を、彼ら自身の間で築くことである。

バハオラは、われわれに、共同体内のユースが一般社会より早く成熟すること期待するよう、励ましておられます。明らかにそれは、教育的・経済的現実、あるいは家族の義務などを軽視するものではありません。それはバハイユースが、社会的変革における道徳的責任を受け入れることを意味します。この言葉の立証として、われわれは、今日、神の山を燃え立たせたその廟の主、そして、われわれが今従事している事業を魂の偉大さと自己犠牲により発進させた若き英雄・英女たちの記憶を呼び起こします。

我々が今日祝っている業績は、2つの逆説的現実を焦点にもたらします。信教自体の内部では、バハイ共同体の結集力は大いなる前進を予期します。その前兆は、至る所で明らかです。必然的には、ショーギ・エフェンディが幾度か強調して述べられたように、この前進は、大業がこれまでに経験したもの以上の激しい反対を引き起こすでしょう。この反対は、代わって、前方に横たわる更に要求の高い仕事に必要とされる偉大な力を解き放つでしょう。

国際テイーチングセンターの
メッセージ
Message from The International Teaching Centre 1988

バハイ共同体には、この若い世代の持つ能力により、将来を形成していくことが可能になるという証拠が十分にあります。彼らは神の「創造的な言葉」を促進し、神の芳香を広めるでしょう。アブドル・バハは、非常に強烈な約束をしておられます。この約束では、また、子供たちは神によりすでに準備されており、われわれが発見するのを待っていると述べられています。

この聖なる宗教制において、ある人々は天なる子どもたちを産み出すであろう。そのような子どもたちは、「アブハの美」の教えを広め、その偉大なる大業に仕えるであろう。天の力と精神的確証をもって、彼らは、神の言葉を広め、神の芳香を拡散することを可能にさせられよう。これらの子どもたちは、東洋の子でも，西洋の子でもない。アジアの子でもアメリカの子でもない。ヨーロッパの子でもアフリカの子でもない。彼らは、御国（みくに）の子どもたちなのである。彼らの故郷は天にあり、安らぎの地はアブハ王国にある。これこそは真実であり、真実の後には迷信しかない。

全人類が御国の子どもたちを両手を広げて迎え入れんことを！

（アブドル・バハ、Tablets of Abdu' l-Baha, Vol. 3, pp. 647-648）

これら子供たちは、集団加入への扉として見なされるべきですし、また自分たち子供の世代に対する実りある布教者として、さらに同年代の子供や年上の子供たちのディープニングをする者としてもなされるべきです。

年齢的には若いが、判断力において成熟し，健全である子どもはいかにたくさんいることか！しかし年齢的には年老いているが無知で混乱したものが何と多いことか！成長と発達は知力と理性の力によるものであり、年齢やどれだけ生きたかということには依存しないからである。（アブドル・バハ、Selections from the Writings of Abdu'l-Baha, pp. 131-132, No. 104）

子供たちは、信教を宣布するだけでなく、人類の治癒をもたらすものとなるべく奨励されています。アブドル・バハは、次のように催促しておられます。

それゆえに、おお啓発された若者たちよ！夜も昼も、知性と精神の神秘を明かすよう、また神の日の秘密を知るように努めよ。「最大名」が到来したという証拠を知りなさい。賛美のために口を開きなさい。説得力のある論議や証拠を示しなさい。渇きにあえぐ者には、生命の泉へとつれていきなさい。病み苦しむものには真の健康を与えなさい。神の弟子となり、神により指示を受ける医師となり，人類の間の病人たちを癒しなさい。仲間はずれにされた者らを親密な友人の輪に招きなさい。絶望する者に希望を与えなさい。眠れる者らの目を覚まし、無頓着な者らの注意を引きなさい。

この世の実りとは、そのようなものである。輝かしき栄光の地位とはそのようなものである。

(Baha'i Education [U.S.A. edn]に引用pp. 52-53)

国際テイーチングセンターはこの時点で、10歳から16歳までの年齢層について特に考えています。人はこの時期に、「成熟の歳」に達します。このユースの初期は、特に今日の世界においては、非常に困難な時期です。しかし同時に、「聖なる書物」によれば、根本的な道徳的・精神的原則を把握する能力は、立派な人格の光を明らかにしますが、その能力は子供らの内に収められているのです。これは、何千人もの子供たちが大業に入ってきて、しっかりとデイープニングされた大業の教師になるよう援助されると、彼らは代わって、同年齢層の子供たちを救うことができるのです。人類史のこの退廃した段階においては、精神的な戦いは、街角や通り、学校の廊下、レクリエーションの場で勝利を収めることができるのです。

あなた方が、われわれの理解するこれらの点を広め、補佐たちがこのビジョンに取り組み、この年齢層のユースたちの特別な能力を育むようアシスタントを励ますことを、われわれは願っています。あなた方は、これらのすばらしいユースたちがこの時期において、大業の生活に招き入れるよう、あらゆるプログラムを開発し、努力を払うべきです。

国際テイーチングセンターからあなた方にあてた最近の手紙は、人材開発のためにインステイチュートの概念を述べ、その活用について述べていますが、それは、ユースのためのプログラムにも直接関係します。それには、補佐とアシスタントも関与することになります。

前述の手紙で、特別な文献を作成する必要性が述べられていました。もちろん、今述べたユース用のプログラムも同様に、特別なものが必要です。子供やユースの本来の性質を刺激するのに適した教材や資料の開発が必須です。国際テイーチングセンターは、実は、集団加入に適した文献の開発という課題全体に関心があります。これらの課題はすべて、あなた方と補佐がこの時期に取る自主的な活動に関連する、大陸顧問との継続的な対話の一部として見なされています 。

PART II
ジュニアユースとは？
What is Junior Youth?

ジュニアユースとは？
Who is Junior Youth?

- 精神的に「成熟の歳」(=15) に達する前の段階。
- 平均して12-14歳の頃 (小学校終盤から中学生))
- ユース (15-１８歳) の前段階。
- もう「子供」ではないが、まだ「大人」でもない。
- 身体・心理・認知・社会・精神 (道徳) 的な局面を持つ
- 劇的な変化のため、多感で、敏感。
- 近い将来の社会の担い手
- 同輩集団との相互関係や影響が大きい

身体的変化 Physical Changes

- 女子は9～14歳、男子は11～16歳頃に第2の急速な成長が起きる。
- ＊生殖機能の成熟
- ＊体毛･声･皮膚などの変化

身体的变化 Physical Changes

知的･認知的変化
Intellectual/Cognitive Changes

- 具体的思考から抽象的思考へ
- 自己中心性が残る：権威者の欠点探し、議論的、自己意識が強い
- 哲学的疑問が出始める

社会的変化 Social Changes

- アイデンテイテイの変化と形成
- 行動範囲の拡大 (身体的成長、交通手段)
- 家族から学校、同輩集団、そして小社会へ
- 小学校から中学校へ

社会的变化 Social Changes

道徳的変化 Moral Changes

- コールバーグの道徳論：
- ＊レベル1：罰の恐れ、利害関係に基づく行動
- *レベル2：社会的的習慣・他人の目に左右される行動
- ＊レベル3：自分なりの内的な道徳律の確立
- →思春期のユースはレベル2で主に機能する

精神的変化 Spiritual Changes

- 「成熟の歳」(=15)
- 道徳的判断を自分で行い、その責任を自分で取る。
- 「完成」という意味ではない。

一般社会でのジュニアユースの生活 Junior Youths' Life in General Society

- 勉学における圧力
- スポーツ系･文化系クラブに専念
- 同輩集団（友達）との関係が強い
- 地域との関係薄い
- 社会的な関係薄い
- 周りからの誘惑が強い

PART III 人間発達論
Human Lifespan Development

人間の発達
Human Lifespan Development

- 多角的局面：身体・認知・感情・社会・精神（道徳）
- 受胎～誕生
- 乳児期
- 幼児期
- 就学年齢期
- 思春期・青年期
- 成人期
- 老年期

人間の発達
Human Development

- 多角的な局面を持つ
- 20歳（成熟期）を過ぎても続く
- ある程度予期できる発達段階を通過する。
- 同時に、例外的で不規則なパターンも相当ある。
- 個人差により大きく異なる。
- 累積的：以前の段階の特徴が次の段階に持ち越される

受胎から誕生まで
From Conception to Birth

- 急速な成長の時期
- 脳および神経系から発達する
- 見、聞き、動くことができる
- 睡眠パターンがある
- 個人差あり
- 精神的生命も受胎から始まる
- 「胎教」ブーム

乳児期から歩き始めの頃まで
0-2歳 Infancy to Toddler-hood

- 急速な成長：身体的・社会的・認知的変化
- 完全な依存状態から独立状態への移行：歩行や話力など
- 模倣と反復：学習の重要な形態
- 言語能力
- 「不変性」（恒久性）に気づいていない
- 5感による世界がすべて
- 初めて人間関係を築く：情緒的安定感を持つ。
- 物理的・社会的世界の探索

幼児期：2-6歳 Pre-school

- 物理的・社会的世界を急速に意識し始める
- 物理的・社会的世界の操作が可能になる
- コミュニケーションにおける記号（シンボル）の使用可能
- 芸術的表現（音楽・ダンス・絵画・劇・遊び）に強い興味
- 生活は遊びや空想の延長線にある
- 空想+想像、架空の世界
- 自発的な思考、ときおり非論理的
- 自己中心的なプロセスから他者の視点から考えられるようになっていく
- 強い意思力、身体的あるいは知的に耐えられる以上のことをしたがる
- 表現欲求

就学年齢期：6-12歳
School Age

- 家族・地域・社会生活に参加し始める
- 規則や義務を学び始める
- 基礎技能や知識の習得に忙しく従事
- 社会的生活に引かれる－－特に同輩集団（ピアグループ）
- 「なぜ」、「どのようにして」という疑問を抱き、世界の仕組みに惹かれる
- 論理的思考－－理由や説明を要求
- 他者とのより複雑な関係や交わりを通して最も効果的な学習
- 科学的実験・操作・説明・具体的例などを好む
- 操作能力が増す－－ただし単局面的、過去の行動から学ぶ
- 「構想」の時期

思春期･青年期 (1)
Adolescence 1

- 劇的な変化と「再検討」の時期
- 精神的･身体的･社会的･情緒的･認知的変化と相互作用
- 複雑な概念を具体的にも抽象的にも理解できる
- 前提条件･規則･すでに受け入れられている知識･価値観･信条について疑問を抱く時期
- 身体の大幅な質的･量的変化
- 子供の身体に始まり大人の身体に変わる時期
- 強烈な感情･情緒を経験する時期

思春期･青年期 (2)
Adolescence 2

- 知的･身体的に「世界を相手にする」能力
- 仕事や家族などの社会的義務がまだない時期
- 指揮や統制を取りたい時期
- 自分と他者に批判的でもある。したがって、思考･考え･感情･勉強などについて分かち合う支援的環境が必要
- 芸術的表現が重要：感情と知性で満たされている(ようやくこの二つが統合される)
- 彼らの芸術はコミュニケーションの形態で、個人的なもの。内面的感情やより高度な思考プロセスを反映する。詩･ストーリー･絵画･ダンス･音楽･スポーツなど。
- 生産･検討･気持ちの散乱･そしてまた生産する時期

思春期･青年期 (3)
Adolescence 3

- 時間を費やす環境：学校 (32%)、地域社会 (27%)、家庭 (40%) (Cskszentmihalyi & Larson, 1984, p.59)
- 何をして過ごすか：生産的活動 (29%)、生活管理維持 (31%)、レジャー (40%)。(Ibid, p. 63)
- 誰と時間を過ごすか：友だち29%)、独りで (25%)、クラスメイト (23%)、家族 (19%；親のみ4. 8%、きょうだいのみ5. 6%、親ときょうだい7. 9%)、見知らぬ人と (1.5%)、その他 (2%)。(ibid., p. 71)

思春期･青年期 (4)
Adolescence 4

- ユースから見た親との口喧嘩の主な原因（トップ3）と時代による変遷
- 夜の帰宅時間、平日に外出する回数、成績(Lynd & Lynd, 1929)
- 社交生活や友人関係、バイトと小遣い、服装(Punke, 1943)
- 自分の犯した間違いを言うのが怖い、夜の外出について厳しすぎる、家族の車について厳しすぎる(Remmers, 1957)
- 勉強、自由時間の使い方、学校(Johnstone, 1975)
- 飲酒･喫煙、外出の時間と頻度、家事手伝い(D.A.Rosenthal, 1982)

成人期　20代～50代
Young & Middle Adulthood

- 成人期（20代～60代）：「自我」適応の時期

老年期　60代～80代以降
Late Adulthood

- 老年期前期（60代～80代）：「協議」の時期
- 老年期後期（80代以降）：「理解と意味付け」の時期

高齢化社会 Ageing Society

- ますます増える「高齢者」
- その扶養
- QOL

死 Death and Dying

- 死の準備
- 死の意味
- 生と死

人間の発達論の要約
Summary of Human Development

段階	年齢	特徴	発達
受胎～誕生	受胎～誕生（約9ヶ月）	受胎～誕生（約9ヶ月）	身体：運動能力
乳児期	誕生～2歳	急速な身体的・社会的・認知的変化、冒険	急速な身体的・社会的・感情的・認知的発達
幼児	2歳～6歳	自己表現	芸術的表現に強い関心：音楽・ダンス・絵画・劇・遊び
就学年齢期	6歳～12歳	構築	「何故」・「どのようにして」という疑問に惹かれる。科学的実験・操作・説明・具体適齢
思春期・青年期	12～20歳	生産・検討・散乱・再生産	芸術的表現：自我の発見・自我統制 道徳的発達の
成人期	20代～60代	自我適応	
老年期前期	60代～80代	協議	
老年期後期	80代以降	理解と意味付け	

PART IV
ジュニアユースに必要なもの
What Junior Youth Need

ジュニアユースに必要なもの
What Junior Youth Need

- 子供期から思春期･青年期へ移行する変化の時期なので調整に必要な時間と空間と心理的な余裕を要する。
- 話を聞いてくれる相手、友達
- 自由、しかし同時に、自分の方向付けを手伝ってくれるガイダンスも必要としている。
- 自己表現をする手段と機会と場
- 同輩集団が最も強力な影響を及ぼすが、少し年上のユースや大人のインプットも重要。

時間と空間　　Time and Space

- 子供期から思春期･青年期へ移行する変化の時期なので調整に必要な時間と空間と心理的な余裕を要する。

友達　Friend

- 話を聞いてくれる相手、友達

ガイダンス　Guidance

- 自由、しかし同時に、自分の方向付けを手伝ってくれるガイダンスも必要としている。
- 精神的･社会的
- 大人のインプット
- 年長ユースのインプット

ポジテイブな同輩圧力
Positive Peer Pressure

- 道徳
- 学業
- 奉仕

自己表現　Self-Expression

- 自己表現をする手段と機会と場
- 芸術･スポーツ･学業･レクリエーション･奉仕
- 奉仕の重要性

親の態度　Parental Attitude

- 話を聞いてあげられる「友だち」の役割に移行する
- 家族中心から同輩集団・社会へと焦点が移るプロセスを理解し、支援する。（外泊など）
- 「離脱の精神」が試される

コールバーグの道徳性レベル
Kholberg's Morality Levels

- レベル1：慣習以前（1. 罰と服従［罰への恐れ］、2. 手段的相対主義［自己の利益］）
- レベル2：慣習的（3. 人間関係における協調［他者を喜ばせる］、4. 法と秩序［に従う］）→ほとんどの思春期・青年期の若者
- レベル3：脱慣習的（5. 社会契約的な遵法主義、6. 普遍的な倫理的原理）自己の道徳原理を確立

ピアジェの認知発達段階
Piaget's Cognitive Development Theory

- 感覚運動　Sensorimotor (0-2歳)：感覚と行動で世界を知る
- 前操作的　Preoperational (2-6歳)：言葉とイメージで物を表象できるが論理的思考に欠ける
- 具体的操作　Concrete operational (7-11歳)：具体的な事象について論理的に考えられる。具体的なアナロジーや算術ができる
- 形式的操作　Formal operational (12歳-成人期)：抽象的思考

エリクソンの心理社会的発達段階
Erikson's Social-Psychological Development Stages

- 乳児（1歳）：信頼vs不信
- 歩き始め（2歳）：自立ｖｓ恥じ・疑い
- 幼児（3－5歳）自主性ｖｓ罪悪感
- 就学年齢（6－12歳）：能力ｖｓ劣等感
- 思春期・青年期（13－20代）：アイデンテイテイｖｓ役割混乱。役割を試すことで自我を洗練していき、それらの役割をひとつのアイデンテイテイに統合していこうとする。
- 成人期前期（20代-40代前半）：親密性ｖｓ孤立
- 成人期中期（40代-60代）：生産性ｖｓ停滞
- 成人期後期（60代後半以降）：統合ｖｓ絶望

ジュニアユース教育の目標
Goals of Junior Youth Education

- 子供時代から大人時代への移行をスムーズにする。
- ジュニアユースの発達段階に適した教育を提供する。
- 体育･知育･徳育の調和
- 自主性を認める
- 道徳的責任を養う
- 社会的貢献ができるようになる

PART V
ジュニアユース教育のモデル
A Model for Junior Youth Education

ルヒ・インステイチュート
Ruhi Institute

背景にある教育理念
Educational Principles

- ＊人は、15歳になると「成熟の歳」に達し、精神的･道徳的な義務を担うことになる。
- ＊したがって、成熟の歳直前の数年間(12-14歳前後)が特別な意味合いを持つ。
- ＊成熟の歳に達すると、自我(個人)と社会(集合的生活) の概念が形成される。
- ＊この段階に達すると、子供期から脱し、ジュニユース･ユースそして成人としての新しい能力を伸ばしていき、人生のより複雑な概念的枠組みを発展させていく。

プログラムの構成要素
Components of the Program

- 友情･友人関係、健全な同輩集団、支えあい
- 楽しい雰囲気
- 学びの姿勢
- 精神的･道徳的な雰囲気
- 遊び
- 奉仕、地域社会への貢献と参加
- 自己表現の場と機会
- 表現力･思考力･創造力･想像力･理解力･暗記力･協議能力･問題解決能力などの開発
- グループの運営と管理

プログラムの構成要素
Components of the Program

- 精神的な準備（お祈りなど、心を落ち着かせる活動）
- 教材を用いた学習：道徳的学習・実用的な技能要請
- 芸術活動：歌・ダンス・劇・音楽・ストーリー・工芸
- レクリエーション
- 地域奉仕
- ユース宣言
- 親睦

ジュニアユース･グループの形態
Form of a Junior Youth Group

- クラスではなく、特定の目的をもって友人が集まるという形を取る。したがって、「ジュニアユースの集い (または集まり)」と呼ぶ。(「ジュニアユースクラス」ではない)
- 宿題は、特別なプロジェクトがある場合は与えない。練習問題は各自でまず行い、その後グループ全体およびファシリテータと共にディスカッションする。
- グループのメンバーは「生徒」ではなく、「友達」として接する。「共に学習をする」雰囲気を作る。
- 定期的に集いを持つ。日時･場所を協議で決める。
- 理想的なファシリテータは訓練を受けたシニアユース。
- ただしプログラム開始時点では、訓練を受けたシニアユースはほとんどいないので、大人の関与と援助が必要。

ジュニアユース･グループの形態
Form of a Junior Youth Group

- プログラムは1年間で1サイクル。
- 1回の集いは2-3時間が理想。
- 週または隔週に1回が理想。。
- ユースの保護者との関係を育む

ジュニアユース･グループの形態
Form of a Junior Youth Group

- 対象：10～16歳(特に12～15歳)のジュニアユース。バハイユース、一般のユース。家族、近所のユース、すでに存在するユースグループなどから始めるとよい。
- 招集者：ジュニアユース自身、シニアユース、大人。
- 集合場所：個人宅、コミュニテイ･センターなど。
- 方法：最初の1、2回は絆作り、楽しい活動、話し合いに時間を取る。この2回が要（かなめ）。目的意識を確立すると同時に、楽しい集まりになるのだという強烈な印象を植え付ける。

ファシリテータの条件
Requisites for a Facilitator

- 理想的にはシニア･ユース（高校生～大学生、若い成人）。しかし、最初は大人の援助が必要。
- ジュニアユースと友だちおよび「お兄さん･お姉さん」役になれる人。
- 2，3年かけてDPWの「卒業生」を養成する。
- 教材およびルヒ･コースBook1、2，3の修了が望ましい。

典型的なジュニアユースの集い
Typical Youth Gathering

- 1. 挨拶･各人の簡単な報告(過去1ヶ月に起きた出来事など) 10-15分
- 2. 歌 10-15分
- 3. お祈り 10分 (お祈りの習慣がないグループは、心を落ち着かせる音楽などを導入できる)
- 4. 教材を使った学習 45-60分
  - *テキストを読む
  - *引用文や詩の暗記
  - *練習問題(個別と集団での問題)
- 5. 芸術的活動：歌･ダンス･絵画･工芸･ストーリー 15-30分
- 6. レクリエーション･遊び (スポーツ、散歩、ゲームなど) 30-60分
- 7. 3,4回ごとにテキストを離れた活動をする：レクリエーション、地域奉仕活動、芸術活動など。ユースと協議で決める。

地域奉仕プロジェクト
Community Service Projects

- ユースに自信を持たせる
- 達成可能な目標の設定：
- 地域への奉仕
- 地域社会との交流の場を持たせる
- 大人または機構などの援助が必要かもしれない
- 「専門家」の援助
- 予算の考慮
- 時間的枠組み：短期型

ユース宣言
Youth Declaration

- ユースたちがもう子供ではなく、ユースになったことを正式に宣言する。
- ユースとして、自分自身と地域社会の進歩のために何を貢献できるか述べる。
- 学習と協議をしながら、宣言の内容を徐々に構築していく。
- 内容はユースたちが提案していく。
- ファシリテータは草稿を手伝う。
- 地域の会合などで披露する。
- ユースのアイデンテイテイ変革に影響を与える。
- 地域社会がユースに対する視点を変える。
- 最近の道徳研究でも採用されている。

教材例
Learning Materials

- レベル1：「確証の微風」(Breezes of Confirmation)
- レベル2：「まっすぐの道を歩む」(Walking the Straight Path)
- レベル3：「言葉の力を引き出す」(Drawing on the Power of the Word)
- さらに2つのレベルを追加の予定

その他のコースとの関係
Relationships to Other Courses

- 0-5歳：開発中
- 6-7歳：ルヒBook3、フルタンコース　1　& 2
- 8-9歳：ルヒBook5、フルタンコース　3　&　4
- 10-11歳：フルタンコース　5　&　6
- 12-14歳：「確証の微風」、「まっすぐの道を歩む」、「言葉の力を引き出す」、フルタンコース7, 8　&　9、
- 15歳以上：ルヒコース (Book1～8) 、「バハオラの言葉を読む」

パート 1 復習 Part 1 Review

- ジュニアユースとはどんな発達段階にありますか？
- ジュニアユース教育が何故重要かつ緊急なのか、理由を述べなさい。
- 親が子ども教育に関してしばしば抱く過った考えとは何ですか？
- ユースに求められている標準と氏名を述べなさい。

パート 2 復習 Part 2 Review

- 人間の発達段階の特徴をそれぞれ述べなさい。
- ジュニアユースの特徴を述べなさい。
- ジュニアユースが必要とする事柄は何ですか？
- 親･教師･大人のジュニアユースに対する態度はどう変わるべきですか？

パート 3 復習 Part 3 Review

- ジュニアユース教育とインステイチュートの関係を述べなさい。
- ルヒコースとDPWプログラムの関係を述べなさい。
- DPWの教育理念を述べなさい。
- DPWの目的は何ですか？
- ファシリテータは誰が務めるべきですか？
- ユースグループのメンバーにどのように接するべきですか？
- DPWの集いはどのような形態を取るべきですか？
- DPWテキストの構成を説明しなさい。

パート 4 復習 Part 4 Review

- ユースグループはどのようにして発足しますか？
- プログラムの主な活動内容を挙げなさい。それの順番はどうあるべきですか？
- 集いはどれくらいの頻度で実施すべきですか？1回の集いの長さは？
- ゲームの例をあげ、デモンストレーションしなさい。
- レクリエーションの例をあげなさい。
- 地域奉仕の例をあげなさい。
- ユースの保護者とはどのような関係を育むべきですか？